九条北小学校　校長室だより

NO.39　令和7年1月20日

★　「よりそう 1.17」　阪神・淡路大震災から30年！　★

＊児童朝会で「阪神・淡路大震災」を実際に経験された方の体験を話しました。

先週金曜日１月１７日は、大きな被害を出した阪神・淡路大震災から３０年目を迎えました。ニュースでも「１．１７のつどい」をはじめ、各地で追悼行事が行われたと伝えていました。昨年１月の能登地震から続き、最近では宮崎でも地震がありました。そういったことを踏まえて、今年は「よりそう」の文字をかたどった灯篭に火がともされました。

実際に神戸市で被災された元校長先生の「体験と３０年を迎える今思うこと」を伝えます。

【もうすぐあの日がやってきます。阪神淡路大震災から３０年。１９９５年の発災以後、日本全国で震度６以上の地震は２２回、震度７以上は７回起きています。地震の報道に接する度に、日常の生活にまぎれて、ともすれば、あの日、あの頃に感じていたこと、考えていたことを忘れかけている自分に気づかされます。そんな自戒の念を込めて、私は、毎年１月１７日には、震災当時の様子を文章に記してきました。今回、震災３０年を機に、改めて、当時の思いを振り返るとともに、現在の心境も加筆しておこうと思います。（中略）

発災 ５時４６分。ゴーッ！！という何とも言えない音とともに、激しい揺れが襲ってきました。テーブルにしがみつかないと立っていられないほどでした。（中略）激しい揺れの中、家族でただ肩を寄せ合い、倒れてくる家具のない場所でうずくまっていることしかできませんでした。（中略）

何とかしてベランダに出ました。夜明け前、停電で暗い中、一見して目に映る景色は、それほど大きな被害がないようでした。遠くで小さな炎が見え、細い煙が上がっていました。実はその煙が、長田区南部を中心に１０，０００平方メートル以上を焼き尽くした大規模火災の発端だったのです。

夜明け 夜が明けて周囲が明るくなるにつれて、周囲の様子が見えてきました。何の被害もなく立っているように見えた家々は、基礎の土台から壁が外れていたり、細い道をふさぐように倒壊していたりしました。ビルは、途中の階は崩れた状態でかろうじて崩れずにいるという状態でした。（中略）

震災前夜。明日はいつも通りの朝が来ることを、誰もが疑わないでいたことでしょう。「おやすみ」の挨拶を交わして眠り、目覚めたら「おはよう」の挨拶を交わす相手がいることを、当たり前とも思わず、何も考えずに布団に入った人がほとんどでしょう。

しかし、次の朝、「おはよう」の挨拶を交わすことが叶わなかった人がたくさんいます。挨拶を交わす相手がいることを、当たり前とも思わず、何も考えずに布団に入った人がほとんどでしょう。

自分の大切な人が　そばにいてくれる
大切なものが　そこにある
当たり前のような日常が、実は、当たり前でなく
本当に貴重な一瞬の積み重ねなのです。

当たり前のようにある
日常のありがたさを
忘れないでいたい。

あの日から３０年。
そのことを自分に言い聞かせています。】